

ウサギ島と毒ガス

大蔵中学校 二年 藤井 ふじい 大河 たいが

日本は、七〇年ほど前まで戦争をしていました。今、日本は戦争をしていませんが、世界では、いまだにたくさん戦争や紛争が起こり、多くの人々が住む場所をなくしたり、命を落としたりしています。

僕は先日、広島にある大久野島というところへ、家族で旅行に行きました。この島は、今はウサギがたくさんいて、どこかで平和な島として人気の観光地になっています。しかし、そこでは、戦時中に毒ガスが作られていたのです。

日本は当時、毒ガス禁止条約に積極的に調印していましたが、その裏で、こっそりと毒ガスを作っていました。事実、一九二九年から一九四五年までの十六年間、大久野島は日本地図から消されていました。

このことから僕は、二つ怒りを感じました。

まず一つ目は、大久野島で毒ガスの製造に当たられた人々についてです。ここでは、約六千七百人もの人々が、毒

ガスを作るために働かされていました。その人たちの多くは、危険なガス兵器を作るとは知らずに島に連れてこられ、作業をさせられていました。最初のうちはきちんとした防護服が与えられていましたが、戦争が長引くにつれて、物資が不足し、古い防護服しか与えられなくなりました。隙間ができた、穴が空いたりした防護服を着て作業をした結果、毒ガスにさらされたり、毒ガスを吸ったりして、重い皮膚病や呼吸器の障害を患いました。毒液を全身に浴びて、数ヶ月もの間苦しんでから亡くなった人もいました。また、亡くならなかったとしても、たくさんの人がその障害に苦しめられました。国民の命を粗末に扱った旧日本軍の行動は本当に許せないと感じました。

二つ目は、この時に作られた毒ガスが、実際に日中戦争で使われ、たくさんの人々の命を奪ったことです。そして、旧日本軍は、敗戦後の戦犯追及を恐れ、約七十万発の毒ガスを中国に遺棄しました。その毒ガスは、今も残っており、戦争が終わった今でも、中国の人々に被害を与えています。二〇〇三年に中国の黒竜江省のチチハルというところで、建設

現場から毒ガスの入ったドラム缶五個が見つかり、その内一個がその場で漏れ出し、液体が染み込んだ土砂が学校や個人宅に運ばれたため、労働者や子どもたち四十四人が被害を受け、ドラム缶を解体した業者が毒ガス液を浴びて亡くなりました。二〇〇四年には中国の吉林省というところの川で遊んでいた少年二人が、地面に刺さっていた毒ガス弾を引き抜いたところ、中から毒ガス液が漏れ出して手足に浴び、重い障害を受けました。このように毒ガスは非人道的で、地雷のように戦争が終わっても残り続け、無差別にたくさんの人々を苦しめています。

日本政府は現在、化学兵器禁止条約に基づいて、二〇〇四年から中国と協力して廃棄事業を進めています。回収・隔離できた毒ガス兵器はたったの五万発だそうです。

僕は、小学校の修学旅行で広島に行き、原爆の恐ろしさと悲惨さを知り、とても悲しい出来事だと感じました。けれど、今回のことで原爆だけでなく、秘密に毒ガス兵器が作られ、自国民も他国民も当時も現在も被害を受けていたと知って、改めて、いかに戦争が恐ろしく悲しいかを感じさせられました。

た。

今、こうしているときもウクライナとロシア、アフガニスタンなど、世界各地で戦争や紛争が起こっています。平和に生活していた人が突然、自分や家族の命、住む場所、生活を奪われます。戦争に正義は無いと思います。終戦から約七十年。戦争という大きな過ちからたくさんのことを学べると思っています。僕たちが戦争をなくすことはできないけれど、学んだことを語り継いでいけば、いつの日か、世界が平和になると思います。